

(11) 沖 繩



沖縄地域では、景気は回復の動きに一服感がみられる。

- ・観光はおおむね横ばいとなっている。
 - ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
 - ・雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

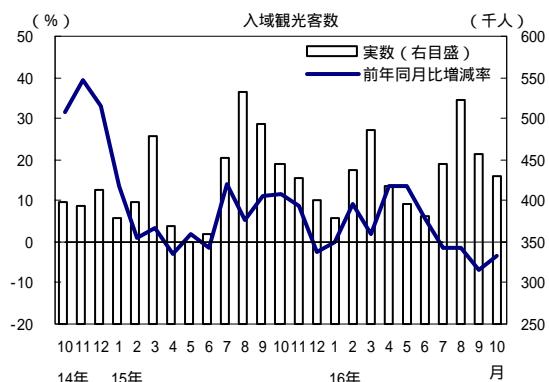
	前回(平成16年8月)	今回(平成16年11月)
景況判断	緩やかに回復している	回復の動きに一服感がみられる
観光	増加	おおむね横ばい
個人消費	緩やかに持ち直している	おおむね横ばい
住宅建設	減少	増加

1. 觀光及び企業動向

(1) 観光はおむね構ばいとなっている。

入域観光客数は、7月は、主要航路の提供座席数の減少やオーバーブッキングへの慎重な対応から6か月ぶりに前年を下回った。8月は、台風の影響で、特に離島への入域客が減少したことや、台湾からのクルーズ船が欠航したこと等により前年を下回った。9月も台風の影響により前年を下回った。10月は、修学旅行は堅調であったが、台風の影響により前年を下回った。なお、7月から4か月連続で前年を下回っているものの、各月とも過去2番目の客数となっており、高い水準で推移している。

7 - 9月期における主要ホテルの客室稼働率については、台風の影響によりキャンセルが相次いだことや新規ホテルとの競争の激化等によりリゾートホテル、那覇市内のホテルともに前年を下回った。



入域蟹光害数等の動向

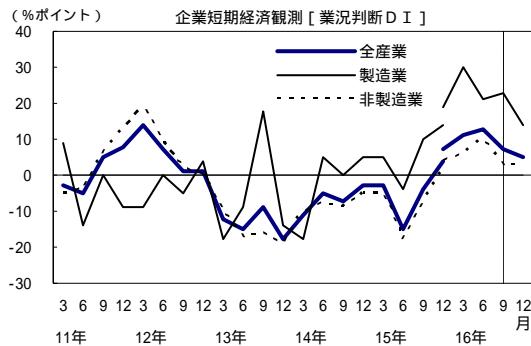
(单位:千人 %)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
入域観光客数 (前年比)	1,275 5.7	1,302 3.6	1,195 10.9	1,427 3.3
ホテル稼働率(前年差)	3.9	0.9	0.7	6.4

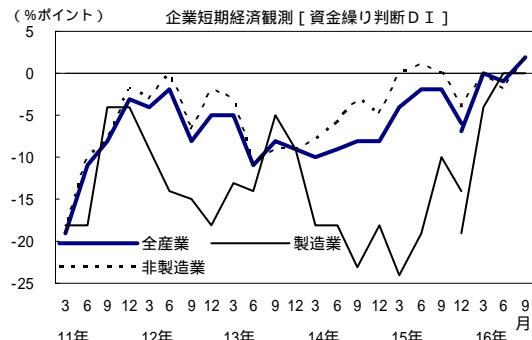
(備考) 1. 入域観光客数は中縄県観光リゾート局調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

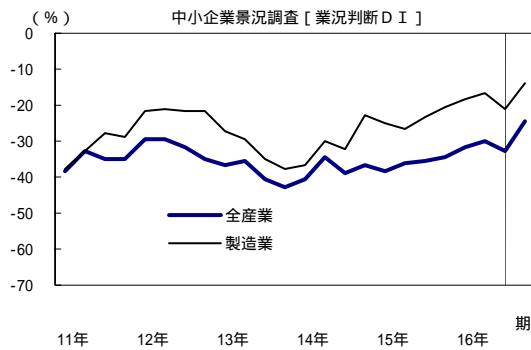
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断 D I]、資金繰り判断 D I 及び中小企業景況調査 [業況判断 D I]



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



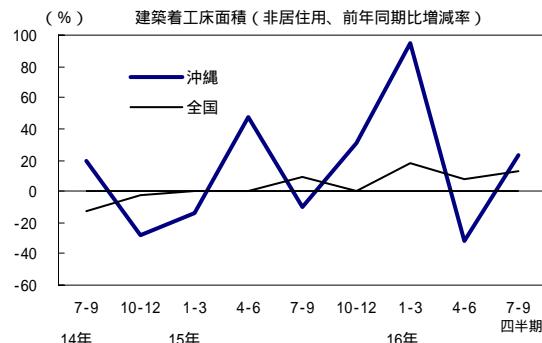
(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。16年期は見通し。
 九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]
 「売上は多少の増減はあるものの、増加している。しかし、原油価格の高騰で燃料業者も値上げしているため、経費増となり利益は横ばい状態である(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]		
	(前年度比増減率、単位: %)	
	15年度実績	16年度目標
全産業	3.6	28.0 (1.1)
製造業	45.0	4.2 (3.2)
非製造業	7.0	30.6 (0.9)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。石油・電力を除く。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおむね横ばいとなっている。

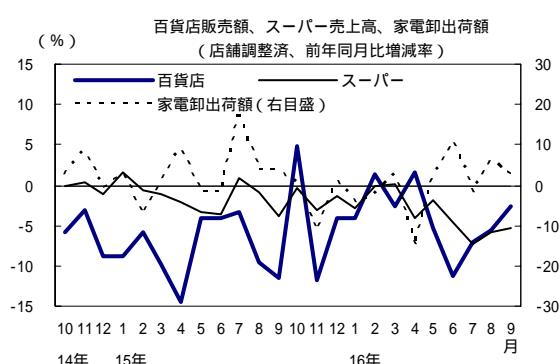
百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は旧盆の時期がずれ、中元商戦が8月入り後となったことから食料品等が振るわず、前年を下回った。8月は台風の影響で来客数が減少したことなどから衣料品を中心に動きが鈍く、前年を下回った。9月は催事の好調により食料品が増加したものの、台風の影響から衣料品等が振るわず、前年を下回った。

スーパーは、昨年の猛暑効果の反動や台風の影響により衣料品を中心に動きが鈍く、前年を下回った。家電は、昨年の猛暑効果の反動でエアコンや冷蔵庫は前年を下回ったものの、アテネオリンピックの影響で、薄型テレビなどが好調であったことから、全体では前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「月初は恒例の物産展が好調であったことに加えて、気温が下がったことから婦人服秋物衣料を中心に順調に推移していた。しかし、中越地震により客の動向はストップし、売上は前年同月比で4%の微減となっている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

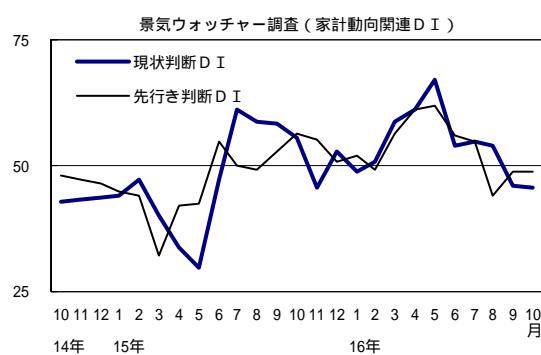
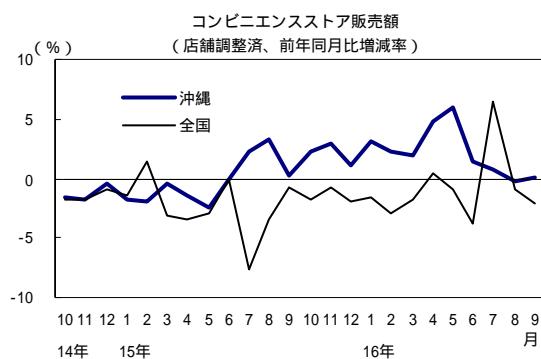


	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
百貨店	4.1	1.9	5.2	5.2
スーパー	1.7	1.0	3.5	6.1
家電卸出荷額	3.0	0.9	1.1	2.0
コンビニ	2.1	2.3	4.1	0.2
景気ウォッチャー	51.4	52.9	60.6	51.5

(備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は中銀銀行調べ。

2. スーパー売上高、コンビニ販売額は日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

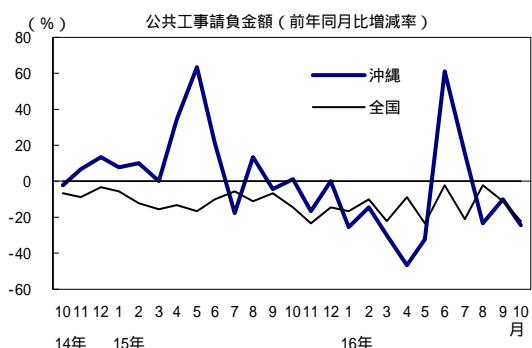
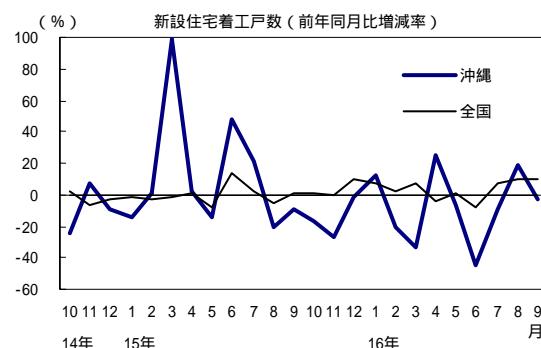
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、賃家、持家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計でみると前年度を下回っている。

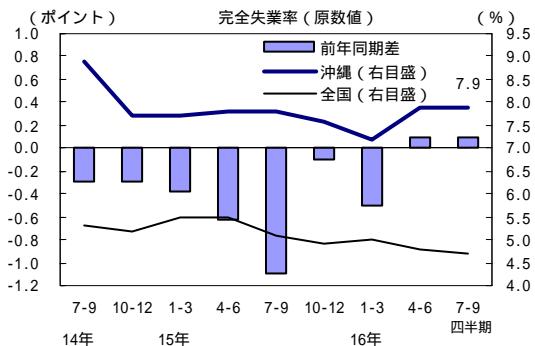
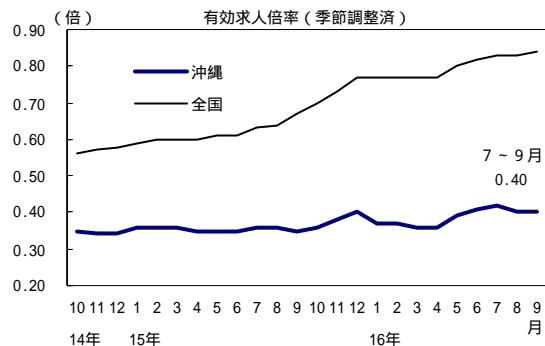


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準である。



(備考) 沖縄県企画開発局統計課「労働力調査」により作成。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

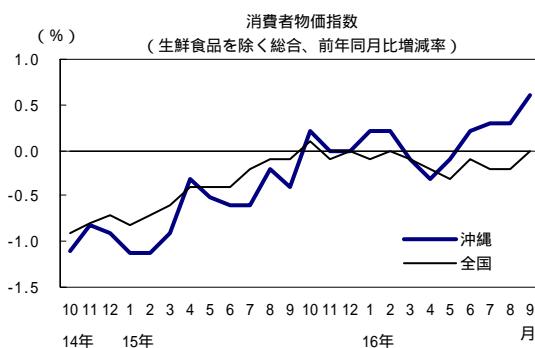
「本土企業からの求人数は増加傾向にあるが、県内企業については大きな変化はない(学校[大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇している。

企業倒産

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数 (前年比)	24 7.7	18 30.8	20 41.2	25 28.6	7 30.0
負債総額 (前年比)	43 49.9	184 11.2	50 58.6	90 48.3	9 52.5



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・派遣依頼は引き続きあるが、単価が非常に低くなっている。思いもかけない人件費単価で入札が行われている。また、依頼があってもなかなか人が集まらず、ミスマッチが最近また表面化してきている(人材派遣会社)。

<先行き>

- ・修学旅行客、団体客を中心に沖縄観光は変わらず好調に推移する。ただ台風、地震災害の影響により観光客の動きが鈍くなる可能性がある(観光名所)。

